

今日吉原遊女一般に白小袖を著して仲の町へ出る

〔浪花の風〕八朔には家々小豆飯を祝ふ、都て毎月朔望には家並赤豆飯多し

〔園太曆〕康永三年八月一日戊午、稱習俗風、今日種々物等流布、就中關白師平并北政所一條前關

白通等被送物、又自式部卿親王被送薰物、其風流妙也、又自近衛前關白嗣基同被送之、自北山中

將又送、此兩人者可合體之由許之

貞和三年八月一日辛未、仲秋朔、幸甚幸甚、稱俗習無内外諸方少々有志與事、就中近衛前關白基良

并右大將跡予公藤原賢并大夫方前關白白麻百帖口被志父子、右幕下鞆遣繩鈹子提被與予、鞠歌被

與大夫云々、予分牛一頭班進前殿、硯文臺銅管入薰物居扇進幕下了、大夫分牛一頭黑進前殿、李白

註文集十冊進幕下、其後一條前關白、鷹司前關白、李部王、兵部王已下方々有此事

〔碧山日錄〕長祿四年八月一日乙巳、勤行如規、舊紀所謂吾俗之憑日也、門客有以珍貨投於春公爲

憑者、乃返之、在服而避吉也

〔武江年表〕此年間元祿記事、吉原の遊女、八朔に白無垢を著する事、元祿中、江戸町壹丁目巴屋

源右衛門が抱へ高橋といへる太夫、その頃瘡キズをわづらひ居けるが、馴染の客來りし時、臥居ける

白むくの儘にして、揚屋入しける容の艶なりしより、是を真似て八朔には一般に白むくを著る

事になりし由、花街大全にいへり、思ふに、昔の遊女に、米島丹後守、出來島長門守、杯名のりしもの

尙可考、

〔一話一言〕十三池田氏筆記、一桂女、每年始、八朔所司代へ御禮トシテ三四人ヅ、來ル、年始ニ餘

八朔ニ菓ヲ上ル菓ハ柿梨類ナリ桂ノ里ニ住ス、人別ニ鳥目一貫文ヅ、下サルナリ、目見無之、著服ハ途

中ニテハ、カツキヲシ、例席ニテハ、カネド、リヲシテ、頭ニ古キ布ヲ頂クナリ、桂女ノ名、左ノ如キモ

ノ也、婦グリ、地ゾウ、フクラ、杯ト云リ